

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月18日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	1	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	企画振興課
事業名	高校・大学・地域連携による国際貢献・国際交流事業			所属	電話
				0265-76-6801	
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要	目的 (目指す姿)	ネパールの農業教育の支援を通じて、世界的視野を持って地域課題の解決に取り組む人材を育成する。			
	現状と課題	管内には、JICA訓練所等の全国的な拠点施設があり、市町村や民間による国際交流活動が活発な地域である。また、グローバル(グローバル+ローカル)人材を育成するコースを新設し、高大連携の探究学習の中で、海外へのアプローチを模索している高校もある。今年度から信州大学農学部が中心となって実施するJICA草の根技術協力事業(提案者:長野県、実施機関:信州大学農学部)と連携し、ネパールの農業分野への国際協力活動を通じて、グローバル人材の育成を推進する必要がある。			
	内容 (変更後の内容)	<p>○ 信州大学農学部との連携による、ネパールへの高校生等の派遣研修 3月上旬の8日間(ネパール6日間、移動2日間) 現地学習、ネパールの農業高校との交流 ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から派遣を中止する。</p> <p>○ 派遣する高校生の募集、選考、研修、報告会の実施 事前研修(集団研修2回:第1回実施1月25日(土)上伊那農業高校、第2回実施2月15日(土)上伊那農業高校、個別研修1回:中止2月29日(土)JOCA事務所) 派遣後研修1回:中止3月14日(土)、報告会1回:中止3月21日(土)</p>			
	事業期間	令和元年5月		～	令和2年3月
	成果目標 (成果指標)	上伊那地域在住の高校生のネパールへの派遣			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考	
	グローバル人材育成事業	ネパールへの高校生等の派遣研修	889,998		
	合 計		889,998		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	<p>○高校生のネパール派遣に向け、高校生の募集、選考、事前研修(一部)、渡航手配を行った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からネパールの派遣を中止するとともに、予定していた研修の一部と報告会を中止した。</p>		<p>選考した高校生に対し、国際経験豊かな講師による研修を実施し、国際協力の必要性、信大が実施する国際協力活動、信頼関係構築法等、現地派遣時に必要な知識を習得させることができた。</p>		<p>○ 期待以上</p> <p>○ 期待どおり</p> <p>● やや下回る</p> <p>○ 期待以下</p>
今後の方向性	今回やむを得ず中止としたが、グローバル人材育成に向け、引き続き、ネパールへの高校生派遣を検討する。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月30日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	2	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	企画振興課
事業名	JR飯田線インスタグラム・フォトコンテスト事業			所属	電話
					0265-76-6801
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要	目的 (目指す姿)	飯田線に実際に人が乗る仕掛けづくりを促進する。			
	現状と課題	JR飯田線は、2027年に東京・名古屋間が開業予定のリニア中央新幹線とのアクセス基盤としての役割が大きく期待されている。長野県での飯田線の1日平均乗車人員は、ここ数年ほぼ横ばいであるものの、ピーク時の約半分となっている。乗車人員のうち約8割が定期利用者で、特に高校生の通学を中心とした地域の重要な公共交通である。飯田線に実際に人が乗る仕掛けづくりを促進することが喫緊の課題となっている。			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フォトコンテストの開催 令和元年11月1日(金)～ 令和2年1月15日(水)17:00</li> <li>○ 入賞の選定 最優秀賞1名、上伊那賞・南信州賞各1名、いいね!賞1名、参加特別賞10名</li> </ul>			
	事業期間	令和元年6月		～	令和2年3月
	成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 応募枚数100枚</li> <li>○ 飯田線に実際に人が乗る仕掛けづくりの促進</li> </ul>			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	フォトコンテスト事業	募集、審査、入賞の選定	284,881		
合 計			284,881		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 募集 76日間の期間中に、278点の応募作品が集まり、フォロワー数は486人に登った。</li> <li>○ 審査、入賞の選定 予備選考を行い50点の作品が通過した。審査委員会による審査により、最優秀賞1名、上伊那賞・南信州賞各1名、いいね!賞1名を選定した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、予定していた表彰式を中止した。</li> </ul>		飯田線に乗りたくなる、沿線に訪れたくなるような、応募者お気に入りの飯田線の写真がインスタグラムを通して数多く集まった。ホームページ等への掲載、ビュースポット集の作成など、次年度以降の夢ある活動へとつなげることができた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 期待以上</li> <li>● 期待どおり</li> <li>○ やや下回る</li> <li>○ 期待以下</li> </ul>
今後の方向性	フォトコンテスト優秀作品を掲載したホームページ等を作成し、JR飯田線に実際に乗車する仕掛けづくりを行っていく。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月31日

上伊那地域振興局

提出区分		実績			
整理番号		3	課題区分		C
実施機関		上伊那地域振興局		担当課	所属 企画振興課
事業名		高速バス利用促進実証実験事業			電話 0265-76-6801
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要等	目的 (目指す姿)	みすずハイウェイバス(高速バス 飯田ー長野線)の利用促進を図る。			
	現状と課題	みすずハイウェイバスは、利用者の減少等により平成22年に飯田ー松本線が廃止となった。2027年のリニア中央新幹線開業を8年後に控え、南北軸の公共交通の維持・確保は、重要な課題となっている。上伊那地域の停留所は、市街地から離れた高速道路上にあるため、停留所とのアクセスがネックであり利用者が増えない要因の一つと考えられている。みすずハイウェイバスの存在自体を知らない住民も多く、まずは高速バスに乗車するきっかけを提供し、リピーターを増やす取組が必要である。			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用実態調査 みすずハイウェイバスの利用者、学生等を対象にアンケートを行い、利用状況や認知度等について調査し、現状を把握する。</li> <li>○ みすずハイウェイバスアクセス確保実証実験 みすずハイウェイバス利用者の停留所(中央道伊那インター及び中央道駒ヶ根インター)とのアクセス手段の企画及び提供に係る実証実験を行い、効果を検証する。</li> <li>○ 旅行商品の企画販売 みすずハイウェイバスを利用した上伊那地域発着の旅行商品を企画し、販売する。</li> </ul>			
	事業期間	令和元年5月		～	令和2年3月
	成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みすずハイウェイバスの認知度の向上</li> <li>○ みすずハイウェイバスの利用者数の対前年度比増</li> </ul>			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	実証実験事業	利用実態調査、実証実験、企画販売	999,900		
合 計			999,900		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用実態調査 みすずハイウェイバスの利用者、学生等を対象にアンケートを実施し、現状を把握した。</li> <li>○ みすずハイウェイバスアクセス確保実証実験 みすずハイウェイバス利用者への停留所(中央道伊那インター及び中央道駒ヶ根インター)とのアクセス手段の企画及び提供に係る実証実験を伊那バスに委託し、期間中のべ318回、343人にアクセス手段を提供した。</li> </ul>		伊那バスでは、乗車券購入者に高速バス停とのアクセスに使えるタクシー券を配布する実証実験を企画し、報道発表、新聞報道、広告等により同路線の認知度が高まった。 台風19号、新型コロナウイルス等の影響により、利用者数は前年度より減少したが、利用実態調査で認知度、利用頻度が特に低かった看護大生を中心に新たな利用者を獲得した。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 期待以上</li> <li>● 期待どおり</li> <li>○ やや下回る</li> <li>○ 期待以下</li> </ul>
今後の方向性	継続的に実証実験を実施し、みすずハイウェイバスの認知度の向上及びリピーターを獲得を図り、同路線の維持・確保に努める。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月5日

上伊那地域振興局

提出区分	実績			
整理番号	4	課題区分	C	
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属 企画振興課、商工観光課
事業名	上伊那の魅力を満喫する観光タクシー実証実験事業		電話	0265-76-6801、0265-76-6832
			E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a> <a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要	目的 (目指す姿)	二次交通手段であるタクシーによる観光ツアーを企画し、需要の把握、有効性の検討を行う。		
	現状と課題	8年後にリニア中央新幹線の開業を控え、長野県駅が設置される予定の飯田市に隣接する上伊那地域では、観光客の増加が期待されている。二次交通の整備が課題であり、広域的な観光地を巡る有効な手段の確立が急務となっている。今回、貸切タクシーによる周遊観光コースを設定し、利用者を交えて検討を行い、次年度以降につなげていく。		
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ モニターツアーの実施</li> <li>跡見学園女子大学観光コミュニティ学部体験ツアー 8月28日(水)～8月30日(金)</li> <li>募集型体験ツアー 9月28日(土)、10月6日(日)、10月26日(土)、10月27日(日)、11月2日(土)</li> <li>高遠高校情報ビジネスコース体験ツアー 11月9日(土)、11月10日(日)、11月23日(土・祝)、11月24日(日)、12月13日(金)</li> <li>○ ツアー内容等の検証</li> <li>ツアー参加者、タクシー事業者、地域の観光関係者らに意見聴取し、検証を行い、商品化につなげていく。</li> </ul>		
	事業期間	令和元年6月		～ 令和2年3月
	成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光素材のブラッシュアップ</li> <li>○ タクシーによる二次交通の問題点等の把握</li> </ul>		
事業費等	(単位:円)			
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	観光タクシー実証実験事業	実証実験、意見交換	1,312,416	
	合 計		1,312,416	
事業実績・成果	事業実績		事業の成果	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 跡見学園女子大学</li> <li>学生6名、教授1名がジャンボタクシーで観光コースを周遊し、観光関係者と意見交換会を実施した。</li> <li>○ 募集型</li> <li>首都圏からのべ11名が参加し、5コースを周遊し、アンケートや関係者との意見交換を実施した。</li> <li>○ 高遠高校</li> <li>跡見学園女子大学教授の講義を受講の後、生徒のべ67名が9コースを周遊し、レポートによる課題抽出を図った。</li> </ul>		<p>意見交換会、アンケート、レポートの結果から、さまざまな「生の声」を抽出でき、タクシーによる移動、観光周遊コースの検討に向け、観光素材や今後の課題の把握、整理等を行った。</p> <p>コースや体験内容について、良好な評価を確認するとともに、研究者、首都圏や地元在住者の視点から、販売価格の水準について、把握することができた。</p>	
今後の方向性	課題の解決、二次交通のあり方検討に向け、タクシー事業者や(一社)長野伊那谷観光局のほか関係機関と連携を図りながらコースの構築を進めていく。			

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)1月14日

上伊那地域振興局

提出区分		実績				
整理番号		5	課題区分	C		
実施機関		上伊那地域振興局		担当課	所属	企画振興課
事業名		農泊体験モデルツアー支援事業			電話	0265-76-6801
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域の強みを活かし、農家民泊の拡大により、つながり人口の増加を図る。				
	現状と課題	リニア中央新幹線の開業を控え、上伊那地域では観光資源の掘起しと誘客の仕組みづくりが課題となっている。当地域の恵まれた農村環境には、豊かな自然や、先人の知恵と文化を体験できる魅力があり、これらを活かした農業体験、農家民泊等、学習旅行の受入れも始まっている。今後、更なる普及を図るため、県、DMOをはじめ地域の関係者が連携し、受入体制を改善、拡大していく必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	首都圏から上伊那地域への、バスによる1泊2日の農泊体験促進モデルツアーをDMOと連携して実施する。参加者や農家の意見をモニターし、受入体制等の課題を把握する。 ○ 対象:首都圏の親子(保護者同伴で体験共有と不安軽減を図る。)、生徒、学生 ○ 内容:地域体験活動、農家での農作業体験、収穫体験、民泊				
	事業期間	令和元年5月		～	令和元年12月	
	成果目標 (成果指標)	○ 参加者、受入農家からの意見徴取、モニター				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	農泊体験促進モデルツアー	旅行企画実施の委託	970,000			
合計			970,000			
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価	
	○ モデルツアーの実施 首都圏の大人11名、子ども20名の計31名が、11月9日(土)～10日(日)1泊2日の日程でツアーに参加した。 ○ 農家民泊の推進 農家8軒のツアー受入れがあった。 ○ 関係機関との連携 (一社)長野伊那谷観光局等と協力してツアーを実施した。		参加者、受入農家からのアンケート結果から、さまざまな「生の声」を抽出でき、旅行商品造成に向け、今後の課題の把握、整理等を行った。 農家民泊や体験内容について、良好な評価を確認するとともに、モニター経験を踏まえた希望販売価格の水準について、把握することができた。		○ 期待以上 ● 期待どおり ○ やや下回る ○ 期待以下	
今後の方向性	課題の解決、農家民泊の推進に向け、(一社)長野伊那谷観光局のほか関係機関と連携を図りながら環境づくりを進めていく。					

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月31日

上伊那地域振興局

提出区分		実績			
整理番号		7	課題区分		C
実施機関		上伊那地域振興局、上伊那農業改良普及センター		担当課	所属 農政課
事業名		夢ある 暮らし×しごと シンポジウム開催事業			電話 0265-76-6812
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-nosei@pref.nagano.lg.jp">kamichi-nosei@pref.nagano.lg.jp</a>
事業の概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域での移住者や起業者の拡大に向けて情報発信を行い、農家民泊など農山村を拠点とした交流や滞在交流型観光を実現し、産業の振興を促進する。			
	現状と課題	2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業に向け、魅力あふれる人材の育成が急務である。また、情報発信の機会が充分とはいえ、地域内の連携を強化し、既成概念にとらわれない、柔軟な視点や価値観に基づく施策を発信していくことが必要である。			
	内容 (変更後の内容)	女性ならではの視点や価値観に焦点を当てた、地域で活躍する女性の移住者や起業家による、夢ある 暮らし×しごと シンポジウムを開催する。 ○ 基調講演(イントロダクション) ○ パネルディスカッション ○ 出演者等による事業の紹介、商品の販売			
	事業期間	令和元年10月		～	令和2年2月
	成果目標 (成果指標)	シンポジウム終了後のアンケートで、「大満足」、「満足」と回答した者の割合が70%以上			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	夢ある 暮らし×しごと シンポジウム	基調講演、パネルディスカッション	169,109		
合計			169,109		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	○ シンポジウムの開催 令和2年1月29日、上伊那地域で活躍する女性の移住者や起業者による基調講演(イントロダクション)、パネルディスカッションを実施した。約90人の来場者があった。		来場者にアンケートを実施し、大満足及び満足と回答した割合＝満足度は次のとおりであった。 基調講演 38/47＝80.9% パネルディスカッション 41/48＝85.4% 全体 40/46＝87.0% 昨年度、今年度のシンポジウムにより、ライフスタイルや女性の活躍等について参加者の関心が高いことが判った。		○ 期待以上 ● 期待どおり ○ やや下回る ○ 期待以下
今後の方向性	JAや伊那商工会議所等、地域の関係団体と連携を図り、引き続き情報発信の支援を推進する。				

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和元年(2019年)11月12日

上伊那地域振興局

提出区分		実績			
整理番号		8	課題区分	C	
実施機関		上伊那地域振興局		担当課	所属 農地整備課
事業名		農業水利資産の郷土学習事業			電話 0265-76-6816
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp">kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp</a>
事業の概要等	目的 (目指す姿)	地域を支え、社会に貢献できる人材を育成する。			
	現状と課題	上伊那地域では、高い品質を誇る米をはじめ、河岸段丘等を利用した多彩な農畜産物が生産されている。この姿は、地域に暮らす人々が長い時間をかけて造り上げてきたものである。これを維持発展させるためには多くの人材が必要であるが、上伊那地域の人口は、2005年の19万2千人をピークに減少傾向となり、現在では18万2千人となっている。また、今後も人口減少と高齢化の進展が見込まれることから、地域を愛し地域を支える人材の育成が課題となっている。			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の作成活用 上伊那地域西部の農業を支える「西天竜幹線水路」や「伊那西部地区のかんがい施設」の歴史や役割が学習できる教材を作成し、活用する。</li> <li>○ 農業用水探検隊の開催 受益地内に暮らす小学生を対象に、作成した教材を活用した「現地見学会」を開催し、「施設を管理する方々や地域農家とのふれあいの場」を設け、地域を支えることの大切さを学習する機会を提供する。</li> </ul>			
	事業期間	令和元年5月		～	令和元年11月
	成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現地見学会7回の開催</li> <li>○ 児童300名の参加</li> </ul>			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	農業用水探検隊事業	教材の作成活用、現地見学会の開催	217,980		
合 計			217,980		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の作成活用 農業資産の歴史や役割が学習できる下敷きを800枚作成し、農業用水探検隊で活用した。</li> <li>○ 農業用水探検隊の開催 現地見学会を9回開催し、7小学校の児童358名、随行の先生21名が参加した。</li> </ul>		<p>現地見学会に参加した小学生や随行の先生に、上伊那地域西部の農業を支える「西天竜幹線水路」や「伊那西部地区のかんがい施設」の歴史や役割を学ぶ機会を提供した。</p> <p>また、各小学校では、現地見学会に参加するに当たり、独自に事前学習を行うなど、現地見学会を契機とした自発的な取組が見られるといった成果があった。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 期待以上</li> <li>○ 期待どおり</li> <li>○ やや下回る</li> <li>○ 期待以下</li> </ul>
今後の方向性	継続的に現地見学会を開催し、教材を活用することにより、地域を支え社会に貢献できる人材を育成していく。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和元年(2019年)11月25日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	9	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属 林務課
事業名	地域の先端技術産業を学ぶ体験学習事業			電話	0265-76-6825
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp">kamichi-rimmu@pref.nagano.lg.jp</a>
事業の概要等	目的 (目指す姿)	林業分野におけるICTを活用した先端技術を体験することにより、若者の林業への就業促進を図る。			
	現状と課題	林業が「人手不足」と言われ始めて久しい。これまでの森林調査は、広大な面積のうちから代表的な林分に標準地を設定し、樹種、樹高、胸高直径を人の手によって測るなど、多くの手間と日数をかけて行われていた。最近の先端技術では、ドローンを活用して樹種等を把握することが可能になり、森林調査は労力をあまりかけず短時間で実施できるようになってきている。			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前調査の実施 伊那市富島の森林を対象に、事前にドローンによる調査を行う。</li> <li>○ ドローンデモンストレーションの開催 10月28日(月)、次世代を担う上伊那農業高等学校の生徒を対象に、ICT、ドローンを活用した森林調査体験を行うとともに、上伊那森林組合を講師に従来の調査方法や、解析の講義を実施する。</li> </ul>			
	事業期間	令和元年9月		～	令和元年11月
	成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校生への最新技術の披露、従来の方法からの改善の理解</li> <li>○ 将来的な林業労働力の確保の促進</li> </ul>			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	ドローン体験事業	事前調査、デモンストレーション	330,000		
	合 計		330,000		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 対象地事前調査等の実施 上伊那森林組合ドローン活用チームにより、9月19日(木)から現地にて事前準備等が行われた。</li> <li>○ ドローンデモンストレーションの開催 10月28日(月)、上伊那農業高等学校コミュニティデザイン科里山コース20名を対象に、ドローンを使ったスマート林業の体験学習を実施した。</li> </ul>		<p>対象者にアンケート取ったところ、多くの生徒から、新技術への驚きの声や勉強になったとの回答があった。また、林業への就職についても、考える余地がある・是非考えてみたいなど、嬉しい回答も多く寄せられた。</p> <p>上伊那農業高等学校からも「好評であり、ドローンに限らず、このような体験を継続していただきたい」とのコメントをいただいた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 期待以上</li> <li>○ 期待どおり</li> <li>○ やや下回る</li> <li>○ 期待以下</li> </ul>
今後の方向性	<p>高校生の期待に応えるためにも、体験学習事業は継続していく必要がある。より一層、他の事業とも連携の上で間伐体験等を実施することにより、更に相乗効果を高めていく。</p>				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月6日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	10	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属	商工観光課
事業名	INA Valley産業支援ネットワーク活動推進事業 (ADL支援産業創出推進事業)		電話	0265-76-6829	
			E-mail	<a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要	目的 (目指す姿)	上伊那地域の産業支援機関等の協力・連携体制を構築するとともに、長野県ものづくり産業振興戦略プランに位置付けるこの地域のADL(日常生活動作)支援産業の集積形成を推進する。			
	現状と課題	ものづくり産業振興戦略プランに基づくADL支援産業の集積形成を目指す上で、地域企業が必要とする現場ニーズや知見を補完する仕組みが不足している。平成30年3月に設立した「INA Valley 産業支援ネットワーク」の実効性のある連携の活用により、企業の課題解決や新たな産業創出を支援する必要がある。			
	内容 (変更後の内容)	○情報交換会の開催 大学等の研究や産業支援機関等の取組を紹介し、会員相互の関係を構築する。 ○企業課題の解決に向けた地域内マッチング等の実施 地域中核企業の活動や課題の紹介を通じ、企業が抱える課題を深掘りし、会員相互の連携による支援の提案や地域内企業とのマッチング等を実施する。 ○ADL支援製品創出勉強会の設置 会員を介して企業を募り、福祉・看護の現場課題や人間工学等を学習する機会を設け、自社技術の向上及び新たなADL支援製品の創出を図る。			
	事業期間	令和元年5月		～	令和2年3月
	成果目標 (成果指標)	○ADL支援等の次世代産業創出 ○「INA Valley 産業支援ネットワーク」の会員(所属機関)及び地域企業を対象とする勉強の場の提供			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	ネットワーク活動推進事業	情報交換会の開催等	129,672		
	合計		129,672		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	○ 会員相互の関係構築、学習機会の創出 地域企業におけるIoT活用に向けた情報交換会を、7月から9月にかけて2回開催し、のべ22団体32名の参加があった。また、ADL(日常生活動作)支援製品創出勉強会を設置し、12月から1月にかけて2回開催し、のべ42団体70名の参加があった。 ○ マッチング等の実施 情報交換会、勉強会の開催を通じ、地域内マッチングの活性化に向けた取組を推進した。		本ネットワークの活用により、会員相互の情報共有をより活発に行うことができ、ADL支援等の次世代産業創出につなげることができた。 また、情報交換会、勉強会の開催を通じ、新たに会員と地域企業との関係構築を図ることができた。		○ 期待以上 ● 期待どおり ○ やや下回る ○ 期待以下
今後の方向性	本ネットワークの実効性のある連携の活用により、企業の具体的な課題解決やADL支援などの新たな製品・産業創出の支援に向けた取組を進める。				

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和元年(2019年)11月28日  
上伊那地域振興局

提出区分		実績				
整理番号		11	課題区分	C		
実施機関		上伊那地域振興局		担当課	所属	商工観光課
事業名		JR東海と共同造成した上伊那周遊ツアー広報事業			電話	0265-76-6832
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要	目的 (目指す姿)	JR東海や管内自治体との連携により、名古屋方面での上伊那地域の知名度向上を図る。				
	現状と課題	信州DCによりJR東海と良好な関係が構築され、昨年度は旅行会社も加わり共同で旅行商品を企画し、好評を博した。今年度も、更に磨きをかけた旅行商品がJR東海や旅行会社との協力により完成し、販売促進のため、名古屋駅等でのポスター掲示、PRが求められている。名古屋圏での大型広報、コラボによる広域的な上伊那観光のPRは、管内自治体からも大きな期待が寄せられている。				
	内容 (変更後の内容)	○ポスターの作成、掲示 JR東海や管内自治体との連携によりポスターを作成し、8月末から9月末まで、名古屋駅等の各駅や東海道線等の列車内に掲示する。 ○JR東海によるPR 商品情報を掲載した旅行パンフレット「Shupo」7万部を各駅等に配置する。 ○阪急交通社によるPR 中日新聞へ150万部の折込広告を行い、会員誌22万部を発行する。				
	事業期間	令和元年7月		～	令和元年10月	
	成果目標 (成果指標)	○JR東海や管内自治体との連携による、旅行商品販売促進を契機とした上伊那地域のPR ○継続的な旅行商品の造成や、広域的な観光PR				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	上伊那周遊ツアー広報事業	ポスターの作成、掲示、PR	181,980			
合計			181,980			
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価	
	○ JR東海、阪急交通社との協力 共同造成した上伊那周遊の旅行商品の販売を促進するため、協力して上伊那地域のPRを実施した。 ○ ポスターの作製、掲示 ポスターB1判300枚、B3判900枚を作成し、8月23日(金)～9月20日(金)の間、名古屋周辺のJR各駅に掲示し、東海道線の列車内に中吊り広告を掲示した。		関係各社や管内自治体と連携した、名古屋圏での大々的な宣伝により、名古屋方面での上伊那地域のPR、知名度向上が図られた。共同造成したツアーを3回催行し、合計106名の参加があった。		● 期待以上 ○ 期待どおり ○ やや下回る ○ 期待以下	
今後の方向性	上伊那8市町村を圏域とする地域連携DMO(一社)長野伊那谷観光局と連携し、官民一体となった広域的な観光地域づくりを推進し、継続的に上伊那地域の観光PRを図る。					

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月31日

上伊那地域振興局

提出区分	実績					
整理番号	12	課題区分	C			
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	企画振興課
事業名	若者人材育成・キャリア教育推進事業			電話	0265-76-6801	
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要	目的 (目指す姿)	中高生に対するキャリア教育を支援するとともに、Uターン就職を促進するため、管内高等学校の魅力発信や県外進学者とのつながりづくりを行う。				
	現状と課題	上伊那地域では、産学官の連携によりキャリア教育の取組が行われており、今後、さらに地域の特長を活かした学びの推進が期待されている。 一方、県外への進学率が高く、Uターン就職する若者が少ない傾向にある。県外進学により学生と地域とのつながりが薄れがちになるため、学生への情報提供体制を充実させる必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	<p>○高等学校魅力発信事業 上伊那管内10校の高等学校における多様で特長ある取組を紹介し、各校の学びの魅力を発信するため、プラットフォーム的なWEBページを開設するとともに、案内チラシを作成し、中学生等に配布する。</p> <p>○若者人材確保事業 県外に進学した学生とのつながり維持を図るため、学生に地元就職イベント等の情報等を効果的に提供できるよう、県外進学後の連絡先登録を促すリーフレットを作成し、卒業前の高校生に配布する。また、子どもの就職に大きな影響力を持つとされる保護者の意向を把握するためのアンケート調査を行い、課題を洗い出す。</p>				
	事業期間	令和元年10月		～	令和2年3月	
	成果目標 (成果指標)	<p>○全進学者数に対する連絡先登録率 昨年度4割→増</p> <p>○保護者アンケート回収率 20%</p>				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	高等学校魅力発信事業	チラシ作成	60,500			
	若者人材確保事業	リーフレット作成、アンケート調査	564,669			
合計			625,169			
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価	
	<p>○ 高等学校魅力発信事業 統一した内容のWEBページを制作し、案内用チラシを作製し配布した。</p> <p>○ 若者人材確保事業 連絡先確保としてLINE及び電子申請サービスを用いた環境を整え、管内高校を介して卒業生へリーフレットを配布した。また伊那職業安定協会が運営する「就職情報提供サービス」に登録している学生の保護者(613名)宛にアンケートを送付。回収数は120通で回収率は19.6%となった。</p>		<p>○ 高等学校魅力発信事業 管内高校をまとめて紹介できる環境が整備できた。</p> <p>○ 若者人材確保事業 LINEをはじめ新しいチャンネルで100名を超える登録者を確保できた(従来どおりの回収数は未確定)。また、アンケート実施により、定量・定性に特徴を把握することができ、求められる取組が明らかになった。</p>		<p>○ 期待以上</p> <p>● 期待どおり</p> <p>○ やや下回る</p> <p>○ 期待以下</p>	
今後の方向性	引き続き、中高生という早い段階から地域とのつながりを深め、就職活動期に地元を選択肢として挙げてもらえるような取組を行っていきたい。					

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和2年(2020年)3月25日

上伊那地域振興局

提出区分	実績					
整理番号	13	課題区分	C			
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属	商工観光課
事業名	台風19号災害復興・観光PR事業			電話	0265-76-6832	
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要等	目的 (目指す姿)	台風19号の影響で全面通行止めとなった国道361号権兵衛トンネルが仮復旧したことを広く周知するとともに、客足が遠のいた上伊那地域へ誘客を図る。				
	現状と課題	国道361号は伊那谷と木曾地域を結ぶ重要な路線であるが、台風19号の影響により、権兵衛トンネル手前の橋梁が崩落し、令和元年10月20日から全面通行止めとなった。12月19日に仮復旧したが、日常生活のほか、観光や経済面においても多大な影響があり、特に紅葉の旅行シーズン等と重なったことから、観光事業者にとっては大きな打撃となった。仮復旧はしたものの片側交互通行であり、本復旧も見通せない状況の中、上伊那地域への誘客をプロモーションしていく必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	上伊那地域の観光誘客プロモーションの実施 ○テレビ番組による、国道361号の仮復旧状況、観光誘客プロモーションVTRの放映 ○ブース出展による、観光パンフレットでのPR、試飲・試食及び物販等				
	事業期間	令和2年1月		～	令和2年3月	
	成果目標 (成果指標)	国道361号の仮復旧の告知及び上伊那地域への誘客の促進				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	上伊那地域観光誘客プロモーション	VTRの放映、イベント会場での観光PR	1,562,000			
	合 計		1,562,000			
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価	
	<p>○ テレビ信州とのコラボ 2月1日(土)、冬の祭典にて国道361号の仮復旧を広く周知し、上伊那地域への誘客を図った。会場にはPRブースを設置し、パンフレットの配布や物産品の販売を実施した。</p> <p>○ 観光誘客プロモーション 上伊那地域の観光施設を取材し、台風19号からの復旧や観光をPRするVTRを制作し、テレビで放映した。</p>		<p>イベント当日は約9,000人の来場者があり、テレビ放映とあわせ復旧告知、誘客促進を広く発信することができた。ブースで約300人を対象にアンケートを実施したところ、上伊那を必ず訪れたい55.0%、機会があれば訪れたい44.4%と、ほぼ全員に高評価であった。</p>		<p>○ 期待以上</p> <p>● 期待どおり</p> <p>○ やや下回る</p> <p>○ 期待以下</p>	
今後の方向性	DMOを中心に関係機関と協力しながら、アンケートでの高評価の結果を踏まえ、より一層上伊那地域への誘客、観光振興を推進する。					